

自作ヒコーキの作製

H28. 10. 21



漁師が曳き釣り(簡易トローリング)に使う道具を『ヒコーキ』と呼んでいる。翼があるので確かにそのように見えるが一見鳥のようでもある。

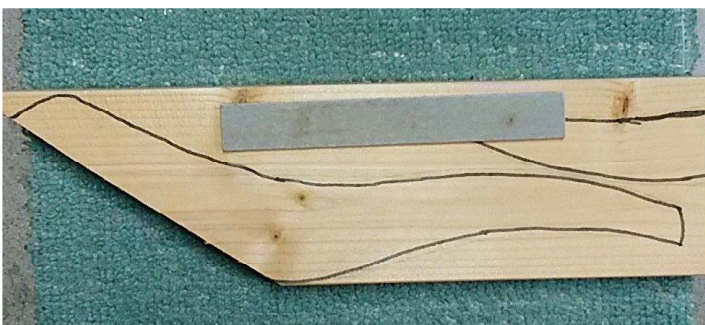
この道具を船の後方

20mぐらいを時速10kmぐらいで曳きながら走れば翼が水面を切って水しぶきが起こるのである。この水しぶきが海面に小魚の群れを演出してくれるためフクラギ釣りには必須の道具である。鹿磯の古い漁師は水しぶきの様子からこの道具を『シャーシャー』とも呼ぶが、どちらにしても安易なネーミングである。

市販のヒコーキ(¥2,500)の多くは木製で全体の浮力とバランスをとるために翼の下に重りを打っている。以前に何回も自作を試みたが曳けば回転したり無駄に飛び跳ねたりでどうしても重りと全体のバランスがとれず自作を断念していた。

ところが、上写真のヒコーキは従来のものとは異なり、本体はプラスチック製で重りはどこにも打っていない。ということは、これと同じ形であれば重りを打たなくてもバランスがとれるということである。それなら自作できる。

厚さ19mmの板に型を写し取り、プラスチック製の翼(20mm×150mm)を準備する。

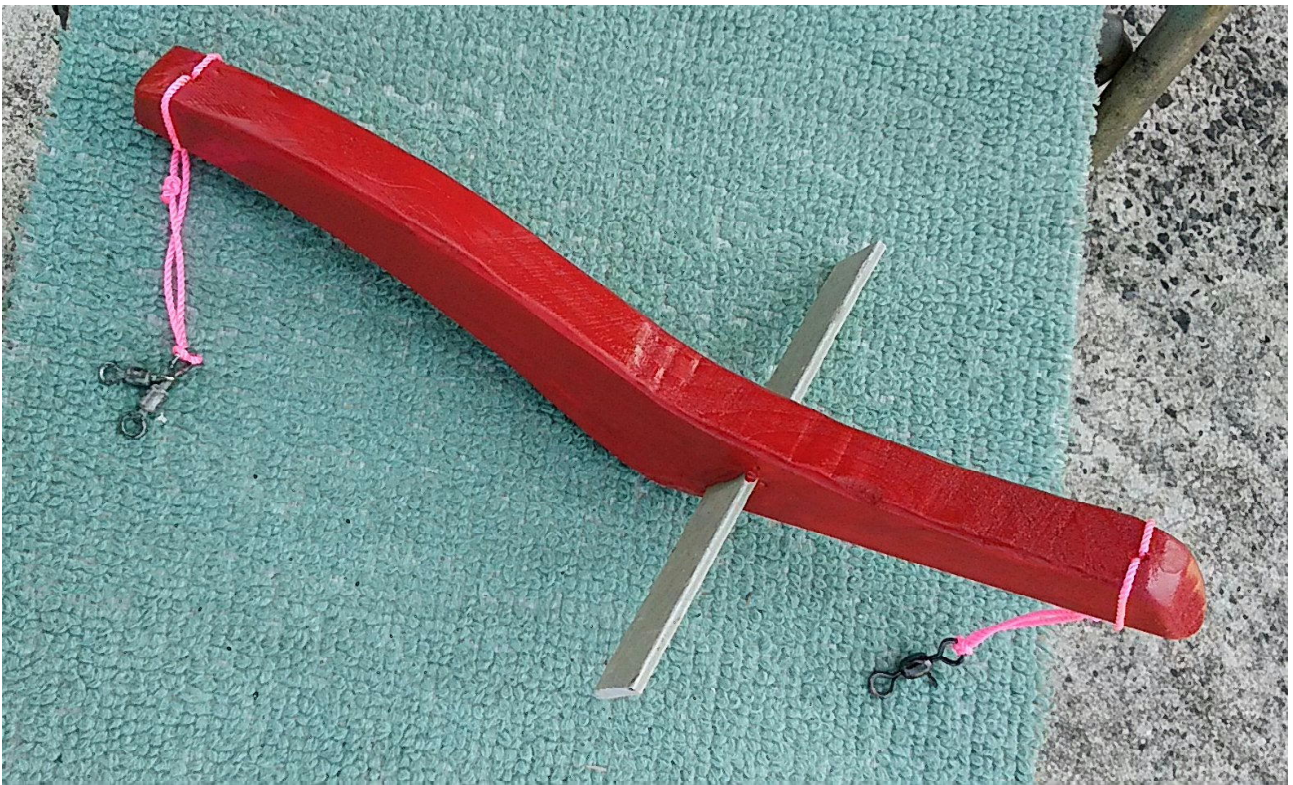


型にあわせて翼の切り込みを入れる。



翼を差し込んだ隙間に薄いベニヤ板を差し込み接着すれば翼は固定される。この時、翼の中心を合わせるのと正面からみて左右の傾きがないように固定することが最大の肝である。

塗装して両端に力糸を結んで完成である。



<試釣>

全体のバランスはとれているが木製であるため浮力が大きいためか、小さな波で跳んでしまうので翼の下に小さな重りを打ったら市販のヒコーキと変わらない安定した動きをするようになった。

(材料費100円程度 労力 計り知れず)